

今回は市総体などの表彰式での話を載せます

今日は、市総合体育大会を中心に表彰を行いました。

選手壮行会では、「甲府西中ここにあり」を示してきてほしいと話しましたが、表彰を受けた人たちは、その成績、結果で、示してくれたと思います。私も当日は、いくつかの試合会場をまわりましたが、どの部も、懸命に戦う姿や大会運営の補助などの裏方の仕事をこなす姿で、「甲府西中ここにあり」を示してくれていたと思いました。

多くの部が県大会へ出場することになりましたが、一部の部活動については、県大会への出場が叶わず、市総体をもって、3年生は引退することになります。引退する3年生に対しては、これまでの2年以上にわたる日々の練習、そして、試合での健闘に、心よりの言葉を贈りたいと思います。「お疲れ様でした」... 部活動はなくなってしまうですが、今後は、義務教育9年間の最大の関門である「進路選択」に向けて、逃げずに全力でぶつかっていきましょう。

さて、今日は、部活動を引退する3年生はもとより、県総体に挑む選手の皆さん、そして西中の全ての皆さんに「体験すること」の意味について話をしたいと思います。

今回の市総体や今日終わった、期末テストをとってみても、皆さんは、その練習やテスト勉強、そして、試合やテスト問題を解いている際、「勝った、うまくいった」「負けた、失敗した」...さまざまな「体験」をしたり「思い」を持ったと思います。

ここまででは、全員、同じだと思います。しかし、その先は、人によって、違いがあるのではないのでしょうか。

私は、大事なのは、この「体験」を「次はどう生かすか」であると思っています。

「体験」の大切さを考えるときに、私が思い出す言葉があります。それは、100年以上前の哲学者(世界や自分、善いこと・悪いことについて、深く粘り強く考えることを職業とする人)が言った次の言葉です。次のような言葉です。

体験だけでは足りない

確かに体験は重要だ。

体験によって人は成長することができる。

しかし、様々な体験を多くしたからといって、他の人よりも優れていると言うことはできない。

体験しても、あとでよく考察しなかったら、何もならないのだ。

どんな体験をしても、深く考えることがなければ、よく噛まずに食べて下痢を繰り返すようなことになる。

つまり、体験から何も学べていないし、何も身につかないということだ。

20年ほど前に知った言葉ですが、初めて目にした時に、ドキッとした言葉です。それまでの私は、特に、年齢が上がると、教員となってからの年数が10年、20年と長くなればなるほど、「私はさまざまな体験を積んでいるから大丈夫」などと勝手に自信を持つようになっていましたが、この哲学者(ニーチェ)は、ただ「体験」するだけでは意味はなく、「体験」の後に「よく考える」ことこそが大切だと言っています。

皆さんの総体での「体験」にあてはめれば、「負ける」という「体験」をした人がほとんどだと思いますが、「負け」という体験から多くのことを学んでほしいと思います。県総体を控えている皆さんにとっては、「負け」の原因を分析し、県総体に備えることが、まずは、「負けから学び、成長する」ということになると思います。

テストや日々の学習、或いは個人的にやっている「習い事」などでも同じです。思うような結果が出ずに、悔しい思いや失敗をすることがあると思います。

これらについても、しっかりとした振り返りを行い、「何が足りなかったのか」や「あの場面でどうしていればもっとよかったのだろうか」と考え、次の行動に生かすことで、自分の成長につなげることができると思います。

少し大きな話になってしまいましたが、日々の学校生活での「さまざまな体験」を、「体験」のままにしておかず、よく考えたり、振り返りを行う中で、成長につなげてほしいと思い、お話ししました。最後に、先ほど紹介した言葉のエッセンスをもう一度、言います。

・体験しても、あとでよく考察しなかったら、何もならない。

・どんな体験をしても、深く考えることがなければ、体験から何も学べていないし何も身につかない。

一人でも多くの方が、「そうだよな」と共感してくれれば嬉しく思います。